

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	別府市教育委員会										
研究課題	B 学校裁量権の拡大による質の高い学校づくりに向けた実践研究										
研究のねらい	<p>本市では、平成23年度より市内全地区公民館にコーディネーターを配置した「別府市地域教育力活性化事業」を実施し、各学校において地域人材を活用した教育活動を展開している。さらには、平成25年度よりコミュニティ・スクール（以下CS）導入に向け、学校・家庭・地域が連携・協働できる組織・運営体制について、調査研究を行っている。そして、平成28年度には市内全小・中学校23校及び1園をCSに指定する予定である。そのため、本事業においては、CS導入に際し質の高い学校づくりを目指し、教職員やCS推進委員会委員等のマネジメント力向上を図る研修プログラムの作成に向けた取組を行うことをねらいとするものである。</p>										
研究の概要	<p style="text-align: center;">「協育」推進協力者会議での説明及び協議内容</p> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 15%;">第1回</td> <td>①「協育」推進協力者会議の組織について ②別府市CSについて ③研修プログラムについて</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第2回</td> <td>①研修プログラム検討委員会における検討資料について ②第1回研修会内容とアンケートについて ③研修全体プログラムのあり方について ④意識・実態調査に関すること</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">第3回</td> <td>①本年度の事業について ②研修プログラム作成報告書について ③研修テキスト（資料）について ④今後の取組について</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">研修プログラム検討委員会での取組内容</p> <div style="background-color: #a9f5d0; padding: 10px; border-radius: 10px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修プログラムの作成 2. 研修プログラムの検証・分析のための研修会 <ol style="list-style-type: none"> ①教職員対象の研修会 ②CS推進委員会委員対象の研修会 ③教職員及びCS推進委員会委員対象の研修会 ④2学校での「熟議」のモデル的実施 3. 研修資料の作成 4. 研修テキストの作成 5. CSに期待する教職員の意識調査 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">①目指す学校像に関する意識調査</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">②CSに関する研修成果の調査</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【研修プログラム】</td> <td style="text-align: center;">【研修テキスト】</td> </tr> </table> </div>	第1回	①「協育」推進協力者会議の組織について ②別府市CSについて ③研修プログラムについて	第2回	①研修プログラム検討委員会における検討資料について ②第1回研修会内容とアンケートについて ③研修全体プログラムのあり方について ④意識・実態調査に関すること	第3回	①本年度の事業について ②研修プログラム作成報告書について ③研修テキスト（資料）について ④今後の取組について	①目指す学校像に関する意識調査	②CSに関する研修成果の調査	【研修プログラム】	【研修テキスト】
第1回	①「協育」推進協力者会議の組織について ②別府市CSについて ③研修プログラムについて										
第2回	①研修プログラム検討委員会における検討資料について ②第1回研修会内容とアンケートについて ③研修全体プログラムのあり方について ④意識・実態調査に関すること										
第3回	①本年度の事業について ②研修プログラム作成報告書について ③研修テキスト（資料）について ④今後の取組について										
①目指す学校像に関する意識調査	②CSに関する研修成果の調査										
【研修プログラム】	【研修テキスト】										

研究の成果	<p>1. 「協育」推進協力者会議の設置による効果 (1) 别府市内の実態把握、研修内容の検討の充実 (2) 研修プログラム検討委員会の編成等、事業に係る詳細の決定機関としての機能 (3) 事業全体に係る総合的な計画、評価、検証に関する協議の充実</p> <p>2. 研修プログラム検討委員会の設置による効果 (1) 必要な研修内容の分析 ア. 行政として対応して欲しいこと ○地域組織等への周知に関すること　○現状及び行政の方針に関すること イ. CSを推進する上での課題 (ア) 学校として抱えている推進上の課題と現状 ○教職員に関すること　○CS推進委員会委員に関すること (イ) CSを推進する上での関係者としての課題 (ウ) 必要な研修内容 (エ) プログラム作成の方向性 ○教師の課題の共有　○学校の課題の明確化　○コーディネート力 ○住民の願いを伝え、ともに育てていく学校支援のマネジメント ○CS推進委員会のメンバーの人選　○学校課題を解決するための方策 ○教員の意識改革　○PDCAサイクル</p> <p>(2) 研修プログラムの検証 ア. 教頭及びCS担当教員研修会 (ア) CSの意義と運営方策 CSの趣旨や方向性に関する理解が約80% (イ) 『学校教育活動のすき間』への地域の教育力の活用を考えよう 教職員と地域が協働する具体的な内容や方法の理解が約75% イ. CS推進委員会委員研修会 (1) CS推進委員会委員の役割 CS推進委員会委員の役割の理解が約80% (2) 学校教育の課題に対応する地域の教育資源を探そう 地域の教育資源（人・文化等）の存在についての理解が約76% ウ. 教職員及びCS推進委員会委員合同研修会 (ア) 実践からの成果と課題を基にして、これからすべきことを考えよう 学校教育課題とCSの取組の関係についての理解が約63% ネットワークの大切さについての理解が約77% (イ) 心を育てるネットワークづくり 「不登校への対応」については、導入時には難しい内容となつたが、CS推進委員会委員と不登校についての熟議に関心を示す教職員の存在があることが分かった。 (3) CS推進委員会での熟議を公開 学校教育課題を共有し協働で取り組むための方策を協議する方法や、取組に対して学校教育課題にどう対応できたかを協議する方法の理解促進 (4) CSに期待する学校（教職員）の意識調査 1. 目指す学校像に関する意識調査：事業実施当初 児童生徒に関する諸課題や、保護者・地域との連携・協力について高い関心を望んでいる（学校のみでは対応しきれない課題があることの認識） 2. 事業終了時の調査：CSに関する研修成果の調査 CS調査研究2年目の学校は、参考になった内容の項目が多く、1年間の取組からCSの課題等を整理出来ていることがうかがえる</p>
問い合わせ先	別府市教育委員会　学校教育課 TEL:0977-21-1574　FAX:0977-22-5100　E-mail:sch-be@city.beppu.oita.jp

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	嬉野市教育委員会
研究課題	C 学校の事務機能強化に関する実践研究 ～「学校事務の共同実施」をとおしての コミュニティ・スクール推進へのアプローチ～
研究のねらい	平成26年度に嬉野市内の全小学校をコミュニティ・スクールに指定し、市内の小中学校12校が全てコミュニティ・スクール（以下CS）となった。それに伴い、学校事務職員も学校運営協議会に参加することになった。 そこで、学校事務職員が学校運営協議会に参画し、学校運営に携わるための具体的方策について明らかにすることを研究のねらいとした。
研究の概要	<p>事務職員の知識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールについて、これまでの経緯や意義について学ぶ。 ○先進地視察をとおしてのCSの活動内容、事務職員の関わり方を調査する。 「学校運営支援室」での視察報告、熟議をとおして事務職員のCSに対する理解やその意義を確認した。 <ul style="list-style-type: none"> ・全国の先進地4カ所の視察 ・「地域とともにある学校づくりフォーラム」への参加 <p>事務職員の意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会への積極的参加 ○各学校で開催された「学校運営協議会」での協議内容を「学校運営支援室」で報告・協議した。経験値・学校規模などによる事務職員の仕事量の違い、各学校でのCSにおける役割分担の違いなど、様々な不安材料や自分だけでは解決できないことなども「学校運営支援室」で話し合い、参画するための意識の向上を図った。 <p>事務職員の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「うれしの事務だより」の発行 「コミュニティ・スクール便り」のコーナーを設けて教職員のCSについての理解を深めるとともに、事務職員の活動を広報した。 ○各学校で「教育活動計画表」の作成 地域の協力を得たい教育活動を、目に見える形で整理し、職員室等に大きく掲示することによって、日程調整などのサポートがしやすいうようにした。 ○事務職員広報部で取り組めることから始める <ul style="list-style-type: none"> ・活動の記録を保護者や来校者に知らせる掲示板の作成 ・校内のコミュニティ・スクール便りの作成 ○地域と学校を結び付けるコーディネーター的役割の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・できる学校からやってみる → 実践校（久間小学校） ○教職員の負担軽減のための業務の効率化の実践

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校集金（学級会計）に関する業務の効率化 → 実践校（五町田小学校ほか2校） <p>○学校支援者のための「学校用語集」の作成</p>
研究の成果	<p>C Sに対する知識・参加意識の向上</p> <p>○学校運営支援室での活動（先進地視察、支援室内での熟議）をとおして、各学校事務職員が C S 参加の意義と役割、期待される活動を共通認識できた。</p> <p>○事務職員が学校運営協議会に参加することにより、事務職員自身の学校運営に関する考え方方が、より一層積極的な方向へ変化した。</p> <p>○近隣に参考となる活動事例がない中でスタートした研究であったが、 C S を理解し、 C S と事務職員の関り方について先進地から学び、各学校の実情に合わせた方法を探る一年を経て、事務職員の C S に関する知識や参加意識は確実に高まった。来年度以降の活動の大きな力になると考えられる。</p> <p>実践に関して</p> <p>○各学校で作成した教育活動計画表によって、学校のカリキュラムと地域のサポート体制をつなぐために必要なことが具体化され、活動の基盤となりうることがわかった。</p> <p>○「うれしの事務だより」に「コミュニティ・スクール便り」を掲載することは、教職員への啓発活動に効果的であった。</p> <p>○事務職員の経験値や通常の業務量、学校環境には、大きな違いがあるが、実践校として取り組める学校があり、その活動や検証結果は次年度以降の市内全体の取組に役立つものである。</p> <p>○「備品台帳のデジタル化」や「校納金徴収事務」等に取り組み、事務の効率化を図ることにより、 C S に関する時間を確保した。</p> <p>○一般の人に馴染みがない教育用語について学校運営協議会の委員をはじめ、学校教育をサポートしていただく方々に理解を深めていただくため、学校支援者のための「学校の用語集」を作成した。地域の方ばかりでなく、教育関係者にもたいへん好評である。</p>
本件問い合わせ先	<p>※嬉野市教育委員会 学校教育課 TEL:0954-66-9128 FAX:0954-66-5676 E-mail:gakkou@city.ureshino.lg.jp</p>



コミュニティ・スクール便り

市内それぞれの学校において、コミュニティ・スクールを地域の方などに知ってもらうため、広報をされているようです。今回は久間小学校を紹介します。

久間小学校

久間小学校の玄関に学校とコミュニティ（地域）と連携して行った活動写真が展示されています。大きな掲示板には「面倒立のお面作り」「ミシン練習」など17もの地域の方の協力のもと行われた活動が豊富で紹介されています。玄関の掲示板は添松齋と保護者の目に届きやすく、地域とのさまざまな活動が行われている事を改めて知ってもらえますね。



学校支援者のための 学校の用語集

(11.27. 2. 19 第1版)

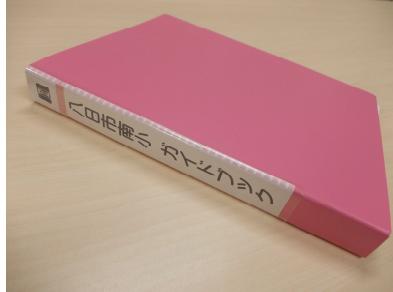
著者資料: 嬉野市立久間小学校 久間小学校ホームページの構成について
九州大学 教育情報・教養書局



嬉野市学校事務共同実施

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	東近江市教育委員会										
研究課題	C 学校の事務機能の強化に関する実践研究 D 校務の情報化や学校広報の充実による学校運営の改善に資する実践研究 テーマ 『活力ある「チーム学校」づくりをめざして ～学校運営をサポートする事務の共同実施～』										
研究のねらい	これまで進めてきた「学校事務共同実施」の取り組みをさらに推進していくことで、市立小中学校においての事務処理体制を統一し事務機能を強化すること。教員に係る事務の簡略化をはかり、教員が児童生徒の指導に専念できる校務運営体制を構築することにより、さまざまな課題解決や学力向上につなげていく。										
研究の概要	市立31小中学校においては、既に学校事務のシステム化を進め、市内統一した事務処理を行っているところであるが、文書管理や学級・学年会計、服務関係の書類作成等、校務運営にかかる内容についてもグループウェアや校務処理システムの活用等により教員の事務軽減に資するよう研究を進めている。 事務の共同実施においては、市内統一した事務処理体制を確立するため、共同実施組織で作成したさまざまな校務処理システムを市内に拡げる取組を行う。また、学校事務支援センターの設置校である八日市南小学校において、校務運営体制の改善に向けた研究を進め、成果を市内学校に報告、提案することで、市内全域に学校運営体制の改善に向け働きかける。また、地域連携、小中連携の促進がなされるよう、共同実施の面から支援できることを考え、学校運営のサポートとなる取組を研究する。これらの取組と並行して、共同実施組織の目的や運営体制等について、関係規則及び規程の整備に着手する。										
研究の成果	<p>○市内教職員を対象にアンケートを実施し、校務処理システムの活用状況を把握することができた。これまでに作成した校務処理システムを改善し、「共同実施システム集」としてまとめ、市内学校に送付することができ、各学校での活用が進んできた。事務処理体制の市内統一に向けて前進した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2">共同実施システム集</td> </tr> <tr> <td>e-omi ときゅうくん</td> <td>e-omi かれいいくん(小学校版・中学校版)</td> </tr> <tr> <td>貸切バス見積徴収システム</td> <td>校外学習・修学旅行精算システム</td> </tr> <tr> <td>カフェテリアプラン</td> <td>校外学習・修学旅行行き先一覧表</td> </tr> <tr> <td>ゲストティーチャー一覧表</td> <td>教科書システムマニュアル</td> </tr> </table> <p>○新たに「校外学習・修学旅行見積徴集システム」および「校外学習精算システム」、「作品募集取扱システム」を作成し各学校に提供することができた。</p> <p>○八日市南小学校では、 ・グループウェアの活用による校内連絡体制の強化 ・「文書管理」および電子データのフォルダ管理 ・「八日市南小ガイドブック」の作成と活用 ・共同実施で作成した校務処理システムの活用 の4つの取り組みを中心に効果的な校務運営体制の構築に向けて研究を行った。 これらの取り組みに全職員で関わることにより、チーム連携力が向上した。「八日市南小ガイドブック」を作成する段階で、学校内の施設の使い方や掃除の仕方などを取り決め、職員で共通理解することができ、生徒指導上の課題解決にもつながった。</p>	共同実施システム集		e-omi ときゅうくん	e-omi かれいいくん(小学校版・中学校版)	貸切バス見積徴収システム	校外学習・修学旅行精算システム	カフェテリアプラン	校外学習・修学旅行行き先一覧表	ゲストティーチャー一覧表	教科書システムマニュアル
共同実施システム集											
e-omi ときゅうくん	e-omi かれいいくん(小学校版・中学校版)										
貸切バス見積徴収システム	校外学習・修学旅行精算システム										
カフェテリアプラン	校外学習・修学旅行行き先一覧表										
ゲストティーチャー一覧表	教科書システムマニュアル										

	 
<p>『八日市南小ガイドブック』</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 服務について 2. 給与について 3. 旅費について 4. 文書管理について 5. 福利厚生について 6. 来客対応とマナー 7. 校舎平面図 8. 校舎使用規程 9. 生活のきまり 10. 教材備品一覧 11. 各種教育等 12. PC関連機器の使用について <p>消防計画書 危機管理マニュアル 防災マニュアル いじめ防止基本方針 体罰防止対策マニュアル</p>	
	<p>文書管理やフォルダ整理、校務処理システムの活用により、学校の事務機能の強化につながった。また、グループウェアの活用により、校内打ち合わせにかかる時間が軽減され、校内連絡体制の確立に向け進んできた。教師の事務作業に関わる時間が減り、児童に関わる時間が増えた。</p>
	<p>○2月6日、本調査研究の報告会を八日市南小学校において実施した。取組の概要をDVDにまとめ、市内小中学校に配付し校務運営体制の構築に向け、発信を行った。</p>  <p>作成したDVD</p>
	<p>○東近江市立学校管理規則に「学校事務共同実施組織」および「学校事務支援センター」についての記述を追加した。また、共同実施組織のリーダーとして、事務長を置くこととした。</p>
問い合わせ先	<p>東近江市教育委員会 学校教育課</p> <p>TEL 0748-24-5671 FAX 0748-24-5694</p> <p>E-mail: hideyuki.sawa@city.higashioomi.shiga.jp</p>

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	京都府京田辺市教育委員会
研究課題	D 校務の情報化や学校広報の充実による学校運営の改善に資する実践研究
研究のねらい	校務支援システムを開発、充実することで小中学校9年間の児童生徒基本情報のデータベース化、教職員の情報の共有、業務の効率化を図るとともに、教職員の活用能力向上に努めることで学校運営の改善に繋げる。また、学校のICT化をホームページやリーフレット等を通して積極的に保護者、地域に情報発信し情報の共有に努める。
研究の概要	<p>1 校務支援システムの導入・開発</p> <pre> graph LR A[システムの開発 ・操作方法の簡略化 ・マニュアルの作成 ・現地調査 ・様々な角度から検証] --> B[プロジェクト会議(準備・推進) ・年間6回の開催 ・アドバイザーによる助言 ・先進地視察研修 ・検討 協議 開発] B --> C[各校での運用 ・校務としての利用 ・システム管理者の任命 ・様々な角度から検証 ・感想や意見] </pre> <p>児童生徒基本情報のデータベース化 データ共有によるきめ細やかな指導 小中同一直接連携による連携強化 サーバー一元管理によるセキュリティの強化</p> <p>2 教職員のICT活用能力の育成</p> <p>ICT支援員の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修会講師 授業サポート 支援システムサポート 個別対応 <p>活用能力の向上</p> <p>各校5日 計60日派遣 教職員の習得技能に応じた個別の対応 計画の段階からの授業サポート</p> <p>3 地域への発信（リーフレットの発行）</p> <p>市内幼稚園、小・中学校に配布</p>

校務支援システム

ikkyu

行事黒板

- 朝の打合せの短縮・省略
- 当日書き加えられたものは黄色で表示

研究の成果

出力された通知表

通知表作成の流れ

表示用時間割画面
変更は赤色で表示

教職員の勤怠管理
18時以降は青色、22時以降は赤色で表示
超過勤務時間の総数を表示

本件
問い合わせ先
[TEL:0774-64-1392](tel:0774-64-1392) FAX:0774-64-1390 E-mail:gakkyo@kyotanabe.jp

「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」まとめ【概略版】

教育委員会名	福津市教育委員会																																																										
研究課題	A. 学校評価の充実・強化に向けた実践研究																																																										
研究のねらい	福津市の小中学校においては、これまでのコミュニティ・スクールにおける教育活動によって子どもたちの成長を実感してきているものの、学校教育目標達成に向けた自律的・組織的な学校運営体制の整備や地域住民に対して適切な説明責任を果たせる仕組みの構築までには至っていない。その要因の一つとして学校評価を実効性のある「活かせる評価」とする学校経営システムの構築ができていないことがあげられる。質の高い学校教育の実現に向けた「地域とともにある学校づくり」を効果的に推進するためには、地域の子どもとしての適切な目標設定を取り入れた学校評価システムの確立が急務となっている。そのために、中学校区の小中学校において、コミュニティ・スクールにおける学校評価の在り方を見直し、教職員、保護者、学校関係者、地域住民による学校関係者評価の活用の工夫を図り、中学校区の小中学校の連携を深め、実効性の高い学校運営を推進するために学校評価の充実・強化に向けた実践研究を実施する。																																																										
研究概要	<p>1. 小中9年間をつなぐ学校評価（自己評価・学校関係者評価）の充実</p> <p>コミュニティ・スクールにおける学校評価やその活用の在り方を見直し、中学校区の小・中学校における共通評価項目の設定や学校関係者評価の結果の活用の在り方を究明する。</p> <p>○調査研究会議の設置（中学校区評価検討委員会）</p> <p>○学校評価における目標の重点化・評価指標の具体化</p> <p>○学校評価（自己評価と学校関係者評価）の中学校区共通評価項目設定と結果の考察</p> <p>○中学校区合同プランの策定・評価項目の系統化（学力向上・体力向上・心力向上）</p> <p>○三校合同学校運営協議会による「学校関係者評価における共通評価項目」の共通理解と評価結果における課題克服にむけた改善案を生み出す熟議（学校・家庭・地域の役割）</p> <p><i>範囲中手抜ブロックで共通に身につけさせたい力と評価方法</i></p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">三校スローガン</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">Challenge to dream(夢への挑戦)</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">～自立・共働・立志～</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <th rowspan="2">まなび</th> <th colspan="5"></th> </tr> <tr> <th>自ら学ぶ</th> <th>共に学ぶ</th> <th>自信を持つ</th> <th>関わりを広げる</th> <th>強い体をつくる</th> <th>地域参画 貢献する</th> </tr> <tr> <td>小学 低 学 年</td> <td>進んで、1日30分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート</td> <td>授業中、進んで自他の考え方を出し合い、聞き合うことができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート</td> <td>自分の好きなことや得意なことをいうことができ る。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U</td> <td>先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート</td> <td>好き嫌いをせずに食べる ことができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート</td> <td>地域の行事（祭りや子供会の行事など）に進んで参加している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり）</td> </tr> <tr> <td>小学 中 学 年</td> <td>進んで、1日45分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート</td> <td>授業中、進んで話し合 い、自他の考え方を比べて似ている点や異なる点に気づくことができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート</td> <td>多様な見方で自分のよいところを自覚している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U</td> <td>先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート</td> <td>好き嫌いせず、健康のために食事が大切だと考えて 食べることができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート</td> <td>地域の行事（祭りや子供会の行事など）に進んで参加している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり）</td> </tr> <tr> <td>小 学 校 高 学 年</td> <td>進んで、1日60分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート ・全国学力測定状況調査</td> <td>授業中、進んで話し合 い、よりよい考え方や新たな考え方を共につくることができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート</td> <td>人との関わりの中で、自分のよいところを見つけることができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U</td> <td>先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査</td> <td>好き嫌いせず、栄養のバランスのことも考えて食べ ができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査</td> <td>地域の行事に進んで参加し、自分にできる仕事をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり） ・全国学力測定状況調査</td> </tr> <tr> <td>中 学 校</td> <td>進んで、1日2～3時間の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・保護者アンケート ・全国学力測定状況調査</td> <td>授業中、友達と一緒に考え方、自分たちの力を答えにたり着くことができる。 ・生徒の投票率 ・教師アンケート</td> <td>学校生活や地域での活動の中で、自分のよいところを伸ばすことができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U</td> <td>先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査</td> <td>好き嫌いせず、食事を通じて健康な体と心をつくる ことができる。 ・教師アンケート</td> <td>地域のために貢献することができる。 ・保護者アンケート ・貢献活動参加生数 ・教師アンケート（CS色図）</td> </tr> </table>	三校スローガン	Challenge to dream(夢への挑戦)					～自立・共働・立志～												まなび						自ら学ぶ	共に学ぶ	自信を持つ	関わりを広げる	強い体をつくる	地域参画 貢献する	小学 低 学 年	進んで、1日30分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート	授業中、進んで自他の考え方を出し合い、聞き合うことができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート	自分の好きなことや得意なことをいうことができ る。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	好き嫌いをせずに食べる ことができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	地域の行事（祭りや子供会の行事など）に進んで参加している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり）	小学 中 学 年	進んで、1日45分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート	授業中、進んで話し合 い、自他の考え方を比べて似ている点や異なる点に気づくことができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート	多様な見方で自分のよいところを自覚している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	好き嫌いせず、健康のために食事が大切だと考えて 食べることができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	地域の行事（祭りや子供会の行事など）に進んで参加している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり）	小 学 校 高 学 年	進んで、1日60分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート ・全国学力測定状況調査	授業中、進んで話し合 い、よりよい考え方や新たな考え方を共につくることができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート	人との関わりの中で、自分のよいところを見つけることができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査	好き嫌いせず、栄養のバランスのことも考えて食べ ができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査	地域の行事に進んで参加し、自分にできる仕事をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり） ・全国学力測定状況調査	中 学 校	進んで、1日2～3時間の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・保護者アンケート ・全国学力測定状況調査	授業中、友達と一緒に考え方、自分たちの力を答えにたり着くことができる。 ・生徒の投票率 ・教師アンケート	学校生活や地域での活動の中で、自分のよいところを伸ばすことができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査	好き嫌いせず、食事を通じて健康な体と心をつくる ことができる。 ・教師アンケート	地域のために貢献することができる。 ・保護者アンケート ・貢献活動参加生数 ・教師アンケート（CS色図）
三校スローガン	Challenge to dream(夢への挑戦)																																																										
～自立・共働・立志～																																																											
まなび																																																											
	自ら学ぶ	共に学ぶ	自信を持つ	関わりを広げる	強い体をつくる	地域参画 貢献する																																																					
小学 低 学 年	進んで、1日30分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート	授業中、進んで自他の考え方を出し合い、聞き合うことができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート	自分の好きなことや得意なことをいうことができ る。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	好き嫌いをせずに食べる ことができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	地域の行事（祭りや子供会の行事など）に進んで参加している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり）																																																					
小学 中 学 年	進んで、1日45分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート	授業中、進んで話し合 い、自他の考え方を比べて似ている点や異なる点に気づくことができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート	多様な見方で自分のよいところを自覚している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	好き嫌いせず、健康のために食事が大切だと考えて 食べることができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート	地域の行事（祭りや子供会の行事など）に進んで参加している。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり）																																																					
小 学 校 高 学 年	進んで、1日60分以上の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・児童アンケート ・保護者アンケート ・全国学力測定状況調査	授業中、進んで話し合 い、よりよい考え方や新たな考え方を共につくることができる。 ・児童アンケート ・教師アンケート	人との関わりの中で、自分のよいところを見つけることができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査	好き嫌いせず、栄養のバランスのことも考えて食べ ができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査	地域の行事に進んで参加し、自分にできる仕事をしている。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・教師アンケート（投票づくり） ・全国学力測定状況調査																																																					
中 学 校	進んで、1日2～3時間の家庭学習をすることができる。（宿題・塾・家庭教師も含む） ・保護者アンケート ・全国学力測定状況調査	授業中、友達と一緒に考え方、自分たちの力を答えにたり着くことができる。 ・生徒の投票率 ・教師アンケート	学校生活や地域での活動の中で、自分のよいところを伸ばすことができる。 ・児童アンケート ・保護者アンケート ・Q-U	先生や友達、地域の方に進んで挨拶をしている。 ・教師アンケート ・全国学力測定状況調査	好き嫌いせず、食事を通じて健康な体と心をつくる ことができる。 ・教師アンケート	地域のために貢献することができる。 ・保護者アンケート ・貢献活動参加生数 ・教師アンケート（CS色図）																																																					

	<p>2. 地域住民に対する学校経営の説明と学校運営への参画意識の高揚</p> <p>学校教育目標達成に向けた学校運営の在り方について地域住民に対して適切な説明責任を果たす場を設定し、保護者や地域住民の考えを学校運営に活かす研究を行う。</p> <p>○市民評価・第三者評価における地域参加型のコミュニティ・スクールフォーラムの実施 ○コミュニティ・スクールフォーラムにおいて、参加者の市内全学校運営協議会委員、保護者、地域住民、行政等に対して、福間中学校校區ブロックにおける学校運営協議会による「熟議と協働」の取組について発表し、アンケートによる評価から改善の在り方を追求 ○コミュニティ・スクールフォーラムのリーフレットを配布し、福間中学校校區の取組を掲載し、学校運営協議会委員の参画意識の高揚を図る。 ○コミュニティ・スクール報告会のリーフレットを配布し、学校運営協議会委員の学校関係者評価委員としての当事者意識を図るとともに、学校運営への参画意識を高める。</p>
<p>研究の成果</p>	<p>1. 小中9年間をつなぐ学校評価（自己評価・学校関係者評価）の充実</p> <p>○小中9年間におけるめざす子どもの姿と三校共通評価項目の共有化を図ることによって、小中の教職員、地域住民、保護者が同じ方向で、児童生徒を育てることができた。</p> <p>○学力・心力・体力・地域貢献における共通評価項目を設定することで小中において重点目標が焦点化を図ることができ、各学校運営協議会委員にとっても評価しやすく、それぞれの立場で担う役割が明確になった。</p> <p>○三校合同学校運営協議会において共通評価項目の評価結果を基に共通課題について熟議を行い、学校・家庭・地域の担う改善策を生み出し、学校運営協議会委員の学校運営への参画意識を高めることができた。</p> <p>2. 地域住民に対する学校経営の説明と学校運営への参画意識の高揚</p> <p>○福津市コミュニティ・スクールフォーラムでは福間中学校校區の学校運営協議会における「熟議と共働」の取組を発表から、市民評価を受け、さらなる改善を図ることができた。</p> <p>○福津市コミュニティ・スクール報告会では、各校長による学校経営や運営についての説明から、市民評価を受け、校長と学校運営協議会委員が協議する場を設定したことで、今年度の課題を改善し、次年度の学校運営に活かす視点をみつけることができた。</p> <p>○本研究のまとめとして、福間中学校校區の学校評価の在り方とともに、学校評価の目的や進め方や学校関係者評価委員の役割などについて学校運営協議会委員に向けたリーフレットを作成し、学校・家庭・地域の三者の学校運営の参画への啓発を行うことができた。</p>
本件問い合わせ先	福津市教育委員会 教育総務課 TEL 0940-52-4914 FAX 0940-52-0314 E-mail: kyoiku@city.fukutsu.lg.jp

